## - 問題 1 ·

次の行列の行列式の値を求めなさい.

$$\left(\begin{array}{cccc}
1 & 3 & -4 \\
3 & 11 & -4 \\
-2 & 1 & 9
\end{array}\right)$$
(0.1)

$$\det\begin{pmatrix} 1 & 3 & -4 \\ 3 & 11 & -4 \\ -2 & 1 & 9 \end{pmatrix} = \det\begin{pmatrix} 1 & 3 & -4 \\ 0 & 2 & 8 \\ 0 & 7 & 1 \end{pmatrix} \quad 1$$
 行目を  $(-3)$  倍して  $2$  行目に加える  $1$  行目を  $2$  倍して  $3$  行目に加える  $1$  行目を  $2$  倍して  $3$  行目に加える  $1$  行目を  $2$  倍して  $3$  行目に加える  $1$  付目を  $2$  付目に加える  $1$  付目を  $2$  付目を  $2$  付目に加える  $1$  付目を  $2$  付目に加える  $1$  付目を  $2$  付目に加える  $2$  付目に加える  $2$  付目を  $2$  付目を  $2$  付目に加える  $2$  付目を  $2$  付置を  $2$ 

(2012 年前期 担当:佐藤)

## - 問題 2 -

次の連立方程式の解を求めなさい.

$$\begin{cases} x + 3y + 5z = 2\\ 2x + 7y + 13z = 5\\ -3x - 9y - 15z = -6 \end{cases}$$
 (0.2)

連立方程式(0.2)は行列とベクトルの方程式に書き直すことができる;

$$\begin{pmatrix} x + 3y + 5z \\ 2x + 7y + 13z \\ -3x - 9y - 15z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \\ 5 \\ -6 \end{pmatrix} \iff \begin{pmatrix} 1 & 3 & 5 \\ 2 & 7 & 13 \\ -3 & -9 & -15 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \\ 5 \\ -6 \end{pmatrix}$$

拡大係数行列を行基本変形により、簡約階段行列に変形する;

$$\left(\begin{array}{ccccc}
1 & 3 & 5 & 2 \\
2 & 7 & 13 & 5 \\
-3 & -9 & -15 & -6
\end{array}\right) \longrightarrow \left(\begin{array}{ccccc}
1 & 0 & -4 & -1 \\
0 & 1 & 3 & 1 \\
0 & 0 & 0 & 0
\end{array}\right)$$

これは、消去法によって (0.2) の未知数を消去するとき、以下の方程式まで式を簡約化できることを意味する;

$$\begin{cases} x & -4z = -1 \\ y + 3z = 1 \end{cases} \tag{0.3}$$

(0.3) の 2 式に共通に含まれる未知数 z を k とおくと, x=4k-1, y=-3k+1 となる. したがって, (0.2) の解は

$$\begin{cases} x = 4k - 1 \\ y = -3k + 1 \\ z = k \end{cases}$$

または,

$$\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = k \begin{pmatrix} 4 \\ -3 \\ 1 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$$

とベクトル表記することができる(ただし, k は任意の実数).